

政治が貧困なのは――という本書の書き出しは、サザエさんの四コマ漫画が出典なのだが、2009年晩夏の歴史的な政権交代の直後、わたしはこの書き出しのせいで、この本はわずか三ヶ月で時代遅れになってしまったのではないかと真剣に思ったものである。しかし、そんな期待はあっという間に裏切られ、わが国の政治状況は坂道を転げ落ちるように悪化してしまい、「悪い人たちがようやくいなくなったと思ったら、もっと悪い人たちが来た」というのが現状であろう。

しかし、悪くなったのは政治だけではない。19ページ脚註に「わが国の家電製品が世界を席卷」とあるが、実は本書の初版の出た頃を境に世界最大の家電メーカーは韓国^{サムスン}の三星電子に取って代わられてしまっているし、74ページ脚註の三洋電機の家電事業は、既に中国の^{ハイアールグループ}海爾集団に売却されてしまっている。

ふだん西暦しか用いないと決めているくせに、わたしは最近「今年は昭和何年だろうか？」と自問することがよくある。87年、という答えを期待しているのではない。昭和20年の敗戦と同じような破滅まであと何年か、ということである。平和憲法のおかげで、戦争に取られて国家権力によって殺される心配はなくなったので、懸念していたのは、財政破綻によるハイパーインフレが起こり、これまで築き上げてきた社会と生活が瓦解してしまうことである。

しかし、2011年3月の大震災後の原発事故は、それだけでは済まないことを露呈した。国も電力会社も学界も、原子力に携わる多くの人びとの無能と不誠実によって、多数の市民の命が脅かされるような状況がいとも簡単に起こってしまった。彼らの無事故神話は帝國陸海軍の不敗神話と何ら変わらないし、また、本来事故と呼ぶべき失態を「事象」と呼んで取り繕ってきたその体質は、退却を「転進」と呼んで誤魔化してきた大本営と同じである。こうして国民を欺いているうちに、遂に自分たち自身まで欺かれてしまい、正しい判断ができなくなってしまったのである。あのような大事故に際し、彼らが為す術もなかった根底には、このような体質があっ

たといえよう。技術の問題は克服可能であったとしても、こうした人心の問題は解決不可能である。科学を志すものは言葉を大切にしないといけない。自分を欺いてはならないのである。

では原子力ムラの人びとを全部粛清すれば済むかというのと、そうはいかない。原子力発電所数十年の歴史によって既に大量に発生してしまった放射性廃棄物を、今後数十万年に亘って自然界から隔離して管理する、という重要な仕事が残っているのである。原子力工学の今後は、こうした出口戦略をさぐることに限られていくことだろう。真珠湾攻撃に際し、戦争終結のビジョンを全く持っていなかった旧日本軍と、この点に於いてもなんと似ていることだろうか。

かつて電子立国日本といわれたのがウソのように零落してしまった昨今であるが、産業界の衰退とは裏腹に、ミネルバの^{ふくろう}鼻よろしく、精緻を極めた文明生活を実現したという点で、わが国の文化は遂に世界最高峰に達したといつて差し支えない。逆にこのことが世界への汎用性という点で足枷となっていることは否めないが、今後わが国は電子立国から文化立国へと、文明の進歩の駒をさらに一歩進めていくことが重要になろう。本書で説いた基礎電磁気学も、このような文化の一翼を担うものとして読んでいただければありがたいと思う。

さて、先刻の自問に戻ると、現在は昭和 12 年から 14 年頃に対応するのではないかと、との思いを禁じ得ない。あるいは次の大震災の到来はもっと早いかもしれない。しかし、今回の大震災で、指導者層の無能とは裏腹に世界を驚嘆させたのは、一般市民の忍耐強さと民度の高さであった。長い伝統の上に、極めて短期間に世界一の文化を築き上げた敗戦後日本の遺伝子が躍如しているといつて良いだろう。したがって、前回同様、破綻後の回復も速いだろう。本書を手にする若い読者諸君が、来たるべき難局に自信を持って立ち向かうことを願ってやまない。

2012 年 6 月

横山 順一